

1

(1)

$$\begin{aligned}
 |z+i|^2 &= 4|z-\sqrt{3}|^2 \\
 (z+i)\overline{(z+i)} &= 4(z-\sqrt{3})\overline{(z-\sqrt{3})} \\
 z\bar{z} + i\bar{z} - iz + 1 &= 4(z\bar{z} - \sqrt{3}\bar{z} - \sqrt{3}z + 3) \\
 z\bar{z} + \left(-\frac{4\sqrt{3}}{3} - \frac{i}{3}\right)\bar{z} + \left(-\frac{4\sqrt{3}}{3} + \frac{i}{3}\right)z + \frac{11}{3} &= 0 \\
 \left\{z + \left(-\frac{4\sqrt{3}}{3} - \frac{i}{3}\right)\right\} \left\{\bar{z} + \left(-\frac{4\sqrt{3}}{3} + \frac{i}{3}\right)\right\} &= \frac{16}{9} \\
 \left|z - \left(\frac{4\sqrt{3}}{3} + \frac{i}{3}\right)\right| &= \frac{4}{3}
 \end{aligned}$$

よって、求める図形は中心が $\frac{4\sqrt{3}}{3} + \frac{i}{3}$ ，半径が $\frac{4}{3}$ の円である。 …(ア)(イ)(答)

【(1)の別解】

$z = x + yi$ (x, y は実数) とおくと、与式は、

$$\begin{aligned}
 |(x+yi) + i| &= 2|(x+yi) - \sqrt{3}| \\
 x^2 + (y+1)^2 &= 4\{(x-\sqrt{3})^2 + y^2\} \\
 x^2 + y^2 - \frac{8\sqrt{3}}{3}x - \frac{2}{3}y + \frac{11}{3} &= 0 \\
 \left(x - \frac{4\sqrt{3}}{3}\right)^2 + \left(y - \frac{1}{3}\right)^2 &= \frac{16}{9}
 \end{aligned}$$

よって、求める図形は中心が $\frac{4\sqrt{3}}{3} + \frac{i}{3}$ ，半径が $\frac{4}{3}$ の円である。 ((1)の別解終り)

【参考】

2点 $A(-i)$ ， $B(\sqrt{3})$ をとると、点 $P(z)$ は

$$AP = 2BP$$

つまり、

$$AP : BP = 2 : 1$$

これを満たす点 P の軌跡は、線分 AB を $2 : 1$ に内分する点 $\frac{2\sqrt{3}-i}{3}$ と、線分 AB を $2 : 1$ に外分する点 $2\sqrt{3}+i$ を直径の両端とする円である (これをアポロニウスの円という)。

1 (つづき 1)

(2) 1 から 72 までの自然数の中で、6 または 8 または 9 で割り切れるものの集合を A とすると、 A の要素は、

6, 8, 9, 12, 16, 18, 24, 27, 30, 32, 36, 40, 42, 45, 48, 54, 56, 60, 63, 64, 66, 72 の 22 個であるから、

$$a_{30} = \boxed{9}. \quad \dots(\text{ウ})(\text{答})$$

また、6, 8, 9 の最小公倍数は 72 であるから、 A の要素の中で小さい方から m 番目のものを b_m とすると、6 または 8 または 9 で割り切れる正の整数は、

$$72l + b_m \quad (l \text{ は } 0 \text{ 以上の整数, } m \text{ は } 22 \text{ 以下の正の整数})$$

と表される。

このことと $1000 = 22 \cdot 45 + 10$ より、 $a_n = 1000$ を満たす n は、

$$72 \cdot 45 + b_{10} \leq n < 72 \cdot 45 + b_{11}$$

すなわち、

$$72 \cdot 45 + 32 \leq n < 72 \cdot 45 + 36$$

を満たす n である。

このうち、最大のものは、

$$72 \cdot 45 + 36 - 1 = \boxed{3275}. \quad \dots(\text{エ})(\text{答})$$

【(2) の別解】

$[x]$ を x を超えない最大の整数とする。

1 から n までの自然数の中で、6 または 8 または 9 で割り切れるものの個数 a_n は、

$$\begin{aligned} a_n &= \left[\frac{n}{6} \right] + \left[\frac{n}{8} \right] + \left[\frac{n}{9} \right] - \left[\frac{n}{24} \right] - \left[\frac{n}{72} \right] - \left[\frac{n}{18} \right] + \left[\frac{n}{72} \right] \\ &= \left[\frac{n}{6} \right] + \left[\frac{n}{8} \right] + \left[\frac{n}{9} \right] - \left[\frac{n}{24} \right] - \left[\frac{n}{18} \right]. \end{aligned}$$

よって、

$$\begin{aligned} a_{30} &= \left[\frac{30}{6} \right] + \left[\frac{30}{8} \right] + \left[\frac{30}{9} \right] - \left[\frac{30}{24} \right] - \left[\frac{30}{18} \right] \\ &= 9. \end{aligned}$$

ここで、 $x - 1 < [x] \leq x$ が成り立つことを用いると、

$$\frac{11}{36}n - 3 < a_n < \frac{11}{36}n + 2$$

が成り立つので、 $a_n = 1000$ とすると、

$$\frac{11}{36}n - 3 < 1000 < \frac{11}{36}n + 2.$$

1 (つづき 2)

$$\frac{35928}{11} < n < \frac{36108}{11}.$$

このとき, $a_{3277} = 1001$, $a_{3276} = 1001$, $a_{3275} = 1000$ であり, a_n は n に関して増加するので, $a_n = 1000$ を満たす最大の n は

3275

である.

((2) の別解終り)

1 (つづき 3)

(3) $y = g^{-1}(x)$ とおく. 逆関数の定義より

$$x = g(y) = y^3 + y.$$

両辺を x で微分すると, 合成関数の微分の公式より,

$$1 = 3y^2y' + y' \iff y' = \frac{1}{3y^2 + 1}.$$

よって, 与式

$$t^2x^2 - f(y) \quad \dots \textcircled{1}$$

を x で微分すると,

$$2t^2x - f'(y)y' = 2t^2x - \frac{f'(y)}{3y^2 + 1}. \quad \dots \textcircled{2}$$

① が $x = t^3 + t$ で極値をとるから, $x = t^3 + t$ のとき ② の値は 0 となる. 逆関数の定義より

$$t = g^{-1}(g(t)) = g^{-1}(t^3 + t)$$

であるから, $x = t^3 + t$ のときの $y = g^{-1}(x)$ の値は t となる. よって,

$$\textcircled{2} = 2t^2(t^3 + t) - \frac{f'(t)}{3t^2 + 1} = 0.$$

分母を払って整理すると,

$$f'(t) = 2t^2(t^3 + t)(3t^2 + 1) = \boxed{6t^7 + 8t^5 + 2t^3}. \quad \dots \text{(オ)(答)}$$

$$f(1) - f(0) = \int_0^1 f'(t) dt = \int_0^1 (6t^7 + 8t^5 + 2t^3) dt = \frac{3}{4} + \frac{4}{3} + \frac{1}{2} = 2 + \frac{7}{12}.$$

よって,

$$f(1) = 2 + \frac{7}{12} + f(0) = \boxed{\frac{7}{12}}. \quad \dots \text{(カ)(答)}$$

(オ)の別解 $g(u) = u^3 + u$ は $g'(u) = 3u^2 + 1 > 0$ より単調増加である. よって, $g^{-1}(x)$ も単調増加なので, x の関数 ① が $x = t^3 + t$ で極値をとることと, y の関数とみた

$$\textcircled{1} = t^2(y^3 + y)^2 - f(y) \quad \dots \textcircled{3}$$

が $y = t$ で極値をとることは同値である. ③ を y で微分して,

$$2t^2(y^3 + y)(3y^2 + 1) - f'(y). \quad \dots \textcircled{4}$$

これが $y = t$ で極値をとることから,

$$2t^2(t^3 + t)(3t^2 + 1) - f'(t) = 0$$

より

$$f'(t) = 2t^2(t^3 + t)(3t^2 + 1) = 6t^7 + 8t^5 + 2t^3. \quad \dots \text{((オ)の別解終り)}$$

1 (つづき 4)

(カ) の補足 (カ) における条件下で, ④ は

$$2t^2(y^3 + y)(3y^2 + 1) - 2y^2(y^3 + y)(3y^2 + 1) = -2(y + t)(y - t)y(y^2 + 1)(3y^2 + 1)$$

となるので, ③ の増減表は $t > 0$ のとき次のようになり $y = t$ で極値を持つ. $t = 0, t < 0$ の場合も同様.

y	...	$-t$...	0	...	t	...
④	+	0	-	0	+	0	-
③	↗	極大	↘	極小	↗	極大	↘

2 C上の点 $(a, \frac{1}{a-4})$ に対する接線の方程式は, $y' = -\frac{1}{(x-4)^2}$ ①

$$y = -\frac{1}{(a-4)^2}(x-a) + \frac{1}{a-4} \dots (*)$$

(1) 曲線Cの接線で点Qを通るものが存在すると仮定する。

(*)は点Q(1,-1)を通るので

$$-1 = -\frac{1}{(a-4)^2}(1-a) + \frac{1}{a-4}$$

$$-(a-4)^2 = (a-1) + (a-4)$$

$$a^2 - 6a + 11 = 0$$

しかし、判別式 $= (-6)^2 - 44 = -8 < 0$ で実数aは存在せず

接点が存在しない。よって仮定は誤りである。

したがって、曲線Cの接線で点Qを通るものは存在しない。(証明終り)

(2) (*)が点P(1,1)を通るので

$$1 = -\frac{1}{(a-4)^2}(1-a) + \frac{1}{a-4}$$

$$a^2 - 10a + 21 = 0$$

$$(a-3)(a-7) = 0 \quad a > 4 \text{ より } a = 7$$

したがって、(*)を(*)に戻せば ②の方程式は $y = -\frac{1}{9}x + \frac{10}{9}$... (**)

またそのときの接点Aは $(7, \frac{1}{3})$... (7)

$$\vec{PB} \cdot \vec{PA} + \vec{PA} \cdot \vec{AQ} + \vec{AB} \cdot \vec{AQ} = -\frac{2}{3}$$

$$\vec{PB} \cdot \vec{PA} + \vec{PA} \cdot (\vec{PQ} - \vec{PA}) + (\vec{PB} - \vec{PA}) \cdot (\vec{PQ} - \vec{PA}) = -\frac{2}{3}$$

$$\vec{PB} \cdot \vec{PA} + \vec{PA} \cdot \vec{PQ} - |\vec{PA}|^2 + \vec{PB} \cdot \vec{PQ} - \vec{PB} \cdot \vec{PA} - \vec{PA} \cdot \vec{PQ} + |\vec{PA}|^2 = -\frac{2}{3}$$

$$\vec{PB} \cdot \vec{PQ} = -\frac{2}{3}$$

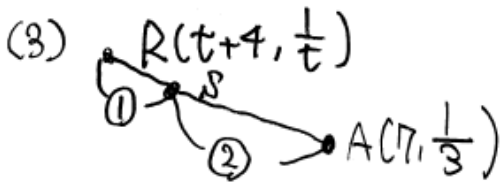
2 (2) のとき

$\therefore B(\rho, \frac{1}{\sqrt{4}})$ とすると $\vec{PB} = \begin{pmatrix} \rho-1 \\ \frac{1}{\sqrt{4}}-1 \end{pmatrix}, \vec{PO} = \begin{pmatrix} 0 \\ -2 \end{pmatrix}$

よって

$$\begin{pmatrix} \rho-1 \\ \frac{1}{\sqrt{4}}-1 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 0 \\ -2 \end{pmatrix} = -\frac{2}{3} \Leftrightarrow -2\left(\frac{1}{\sqrt{4}}-1\right) = -\frac{2}{3} \Leftrightarrow \rho = \frac{19}{4}$$

よって $B\left(\frac{19}{4}, \frac{1}{2}\right)$... (7)



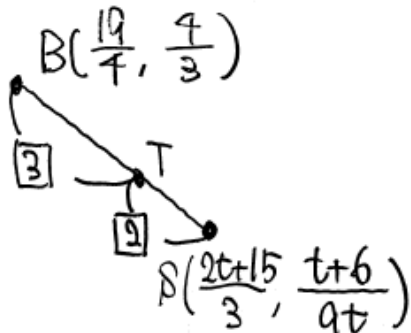
$$S\left(\frac{7+2(t+4)}{3}, \frac{\frac{1}{3} + \frac{2}{t}}{3}\right)$$

$$S\left(\frac{2t+15}{3}, \frac{t+6}{3t}\right)$$

$$T\left(\frac{\frac{19}{2} + (2t+15)}{5}, \frac{\frac{8}{3} + \frac{t+6}{3t}}{5}\right)$$

$$T\left(\frac{4t+49}{10}, \frac{3t+2}{5t}\right)$$

よって $u = \frac{4t+49}{10}$... (8)



$$uv = \left(\frac{4t+49}{10}\right) \cdot \left(\frac{3t+2}{5t}\right) = \frac{12t^2 + 155t + 98}{50t} = \frac{12t + \frac{98}{t} + 155}{50}$$

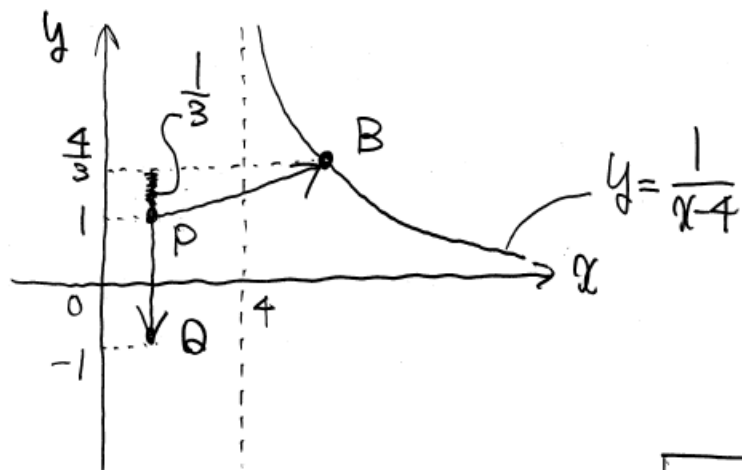
分子に注目する。 $t > 0$ より 相加平均・相乗平均の不等式により

$12t + \frac{98}{t} \geq 2\sqrt{12t \cdot \frac{98}{t}}$ が成立し、等号が成立するとき是最小値をとるので

$$12t = \frac{98}{t} \Leftrightarrow t^2 = \frac{49}{6} \quad t > 0 \text{ より } t = \sqrt{\frac{7}{6}} \text{ ... (9)}$$

2 (2) Bの座標を求める別解

$\vec{PB} \cdot \vec{PQ} = -\frac{2}{3}$ は \vec{PB} の y 軸への正射影の長さが $\frac{1}{3}$ であることを表している。 ($\because |\vec{PQ}| = 2$)



よって B の y 座標 $= \frac{4}{3}$ とわかるので $B\left(\frac{19}{4}, \frac{4}{3}\right) \dots (7)$

3

さいころを投げて 1, 3 の目が出たときは, P, Q を動かさないものとする。

さいころを 1 回投げたとき, 3 つの事象 A, B, C を

A: 点 P のみ正の向きに 1 だけ動く (2, 4 の目が出る. 確率 $\frac{1}{3}$)

B: 点 P, Q の座標の差が変わらない (1, 3, 6 の目が出る. 確率 $\frac{1}{2}$)

C: 点 Q のみ正の向きに 1 だけ動く (5 の目が出る. 確率 $\frac{1}{6}$)

により定める。

(1) さいころを 2 回投げて, P と Q の距離が 2 となるのは

1 回目, 2 回目ともに A が起こる

1 回目, 2 回目ともに C が起こる

のいずれかの場合であり, その確率は

$$p_2 = \frac{1}{9} + \frac{1}{36} = \boxed{\frac{5}{36}} \quad \dots (\シ)$$

(2) さいころを $n+1$ 回投げ終えて, P と Q が同じ位置にあるのは
 n 回目を終えて P の座標が Q より 1 大きく, つぎに C が起こる
 n 回目を終えて P と Q が同じ位置にあり, つぎに B が起こる
 n 回目を終えて P の座標が Q より 1 小さく, つぎに A が起こる

のいずれかの場合であるから

$$y_{n+1} = \boxed{\frac{1}{6}} x_n + \boxed{\frac{1}{2}} y_n + \boxed{\frac{1}{3}} z_n \quad \dots \textcircled{1} (\ス), (\セ), (\ソ)$$

$(n = 1, 2, 3, \dots)$

さいころを $n+1$ 回投げ終えて, P の座標が Q より 1 大きいのは

n 回目を終えて P の座標が Q より 1 大きく, つぎに B が起こる

n 回目を終えて P と Q が同じ位置にあり, つぎに A が起こる

のいずれかの場合であるから

$$x_{n+1} = \frac{1}{2} x_n + \frac{1}{3} y_n \quad \dots \textcircled{2}$$

同様に

$$z_{n+1} = \frac{1}{6} y_n + \frac{1}{2} z_n \quad \dots \textcircled{3}$$

② - 2 × ③ をつくと

$$x_{n+1} - 2z_{n+1} = \frac{1}{2}(x_n - 2z_n)$$

したがって, 数列 $\{x_n - 2z_n\}$ は等比数列となる。

$x_1 = \frac{1}{3}, z_1 = \frac{1}{6}$ から $x_1 - 2z_1 = 0$ を得るので $x_n - 2z_n = 0$ となり

$$x_n = \boxed{2} z_n \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots (\タ)$$

3 (つづき)

(3) ①に $x_n = 2z_n$ を代入した式と ③ をならべると

$$z_{n+1} = \frac{1}{6}y_n + \frac{1}{2}z_n$$

$$y_{n+1} = \frac{1}{2}y_n + \frac{2}{3}z_n$$

この2式で上の式に下の式の α 倍を加えると

$$z_{n+1} + \alpha y_{n+1} = \left(\frac{1}{2} + \frac{2}{3}\alpha\right)z_n + \left(\frac{1}{6} + \frac{1}{2}\alpha\right)y_n$$

この右辺が $\left(\frac{1}{2} + \frac{2}{3}\alpha\right)(z_n + \alpha y_n)$ となるとすると, y_n の係数に関して

$$\frac{1}{6} + \frac{1}{2}\alpha = \left(\frac{1}{2} + \frac{2}{3}\alpha\right)\alpha$$

$$\alpha^2 = \frac{1}{4} \text{ となって } \alpha = \pm \frac{1}{2}$$

$$\beta = \frac{1}{2} + \frac{2}{3}\alpha \text{ と合わせて}$$

$$(\alpha, \beta) = \left(\frac{1}{2}, \frac{5}{6}\right), \left(-\frac{1}{2}, \frac{1}{6}\right) \quad \dots(\text{チ}), (\text{ツ})$$

(4) (3)の結果から, すべての自然数 n に対して

$$z_{n+1} + \frac{1}{2}y_{n+1} = \frac{5}{6}\left(z_n + \frac{1}{2}y_n\right)$$

$$z_{n+1} - \frac{1}{2}y_{n+1} = \frac{1}{6}\left(z_n - \frac{1}{2}y_n\right)$$

したがって, 2つの数列 $\left\{z_n + \frac{y_n}{2}\right\}$, $\left\{z_n - \frac{y_n}{2}\right\}$ はそれぞれ公比が $\frac{5}{6}$, $\frac{1}{6}$ の等比数列となる. $z_1 = \frac{1}{6}$, $y_1 = \frac{1}{2}$ であるので

$$z_n + \frac{y_n}{2} = \left(\frac{5}{6}\right)^{n-1} \left(z_1 + \frac{y_1}{2}\right) = \frac{5}{12} \left(\frac{5}{6}\right)^{n-1} = \frac{1}{2} \left(\frac{5}{6}\right)^n$$

$$z_n - \frac{y_n}{2} = \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \left(z_1 - \frac{y_1}{2}\right) = -\frac{1}{12} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} = -\frac{1}{2} \left(\frac{1}{6}\right)^n$$

この2式を加えて2で割ると

$$z_n = \frac{1}{4} \left(\frac{5}{6}\right)^n - \frac{1}{4} \left(\frac{1}{6}\right)^n \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

n 回目 ($n = 2, 3, \dots$) に P と Q の距離が 2 となるのは

$n-1$ 回目を終えて P の座標が Q より 1 大きく, つぎに A が起こる

$n-1$ 回目を終えて P の座標が Q より 1 小さく, つぎに C が起こる

のいずれかの場合であるから, その確率は

$$p_n = \frac{1}{3}x_{n-1} + \frac{1}{6}z_{n-1} = \frac{5}{6}z_{n-1}$$

$$= \frac{5}{24} \left\{ \left(\frac{5}{6}\right)^{n-1} - \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \right\}$$

$p_1 = 0$ と合わせて

$$p_n = \frac{1}{4} \left(\frac{5}{6}\right)^n - \frac{5}{4} \left(\frac{1}{6}\right)^n \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots(\text{テ})$$

4

$$\begin{aligned}
 (1) \quad I_n &= \int_1^n \left(\frac{1}{x}\right)^{\frac{3}{2}} dx \\
 &= \left[-\frac{2}{\sqrt{x}}\right]_1^n \\
 &= -\frac{2}{\sqrt{n}} + 2
 \end{aligned}$$

より,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} I_n = \boxed{2}. \quad \dots(\text{ト})(\text{答})$$

(2)(証明)

$k-1 \leq x \leq k$ (k は 3 以上の整数) において, $\left(\frac{1}{k}\right)^{\frac{3}{2}} \leq \left(\frac{1}{x}\right)^{\frac{3}{2}}$ が成り立つから,

$$\int_{k-1}^k \left(\frac{1}{k}\right)^{\frac{3}{2}} dx \leq \int_{k-1}^k \left(\frac{1}{x}\right)^{\frac{3}{2}} dx$$

すなわち,

$$\left(\frac{1}{k}\right)^{\frac{3}{2}} \leq \int_{k-1}^k \left(\frac{1}{x}\right)^{\frac{3}{2}} dx$$

が成り立つので, $n \geq 3$ のとき,

$$\begin{aligned}
 S_n &= \left(\frac{1}{1}\right)^{\frac{3}{2}} + \left(\frac{1}{2}\right)^{\frac{3}{2}} + \sum_{k=3}^n \left(\frac{1}{k}\right)^{\frac{3}{2}} \\
 &\leq \left(\frac{1}{1}\right)^{\frac{3}{2}} + \left(\frac{1}{2}\right)^{\frac{3}{2}} + \sum_{k=3}^n \left\{ \int_{k-1}^k \left(\frac{1}{x}\right)^{\frac{3}{2}} dx \right\} \\
 &= \left(\frac{1}{1}\right)^{\frac{3}{2}} + \left(\frac{1}{2}\right)^{\frac{3}{2}} + \int_2^n \left(\frac{1}{x}\right)^{\frac{3}{2}} dx \\
 &= 1 + \frac{\sqrt{2}}{4} + \left[-\frac{2}{\sqrt{x}}\right]_2^n \\
 &= 1 + \frac{5\sqrt{2}}{4} - \frac{2}{\sqrt{n}}.
 \end{aligned}$$

このことと $S_1 = 1$, $S_2 = 1 + \frac{\sqrt{2}}{4}$ より, すべての n に対して $S_n < 1 + \frac{5\sqrt{2}}{4}$ が成り立つ.

(証明終り)

4 (つづき 1)

$$\begin{aligned}
 (3) \quad \int_0^{\frac{\pi}{2}} x \cos 5x \, dx &= \left[\frac{x}{5} \sin 5x + \frac{1}{25} \cos 5x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\
 &= \boxed{\frac{\pi}{10} - \frac{1}{25}}. \quad \dots(\text{ナ})(\text{答})
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 (4) \quad \int_0^{2\pi} |\sin kx| \, dx &= \sum_{l=1}^{2k} \left(\int_{\frac{l-1}{k}\pi}^{\frac{l}{k}\pi} |\sin kx| \, dx \right) \\
 &= \sum_{l=1}^{2k} \left\{ \int_{\frac{l-1}{k}\pi}^{\frac{l}{k}\pi} (-1)^{l-1} \sin kx \, dx \right\} \\
 &= \sum_{l=1}^{2k} \left\{ \left[\frac{(-1)^l}{k} \cos kx \right]_{\frac{l-1}{k}\pi}^{\frac{l}{k}\pi} \right\} \\
 &= \sum_{l=1}^{2k} \left[\frac{(-1)^l}{k} \cos l\pi - \left\{ \frac{(-1)^l}{k} \cos(l-1)\pi \right\} \right] \\
 &= \sum_{l=1}^{2k} \left[\frac{(-1)^l}{k} \cdot (-1)^l - \left\{ \frac{(-1)^l}{k} \cdot (-1)^{l-1} \right\} \right] \\
 &= \sum_{l=1}^{2k} \frac{2}{k} \\
 &= 2k \cdot \frac{2}{k} \\
 &= \boxed{4}. \quad \dots(\text{ニ})(\text{答})
 \end{aligned}$$

4 (つづき2)

(5)(証明)

$$\begin{aligned}
 |a_k| &= \left| \int_0^{2\pi} f(x) \cos kx \, dx \right| \\
 &= \left| \left[f(x) \cdot \frac{1}{k} \sin kx \right]_0^{2\pi} - \int_0^{2\pi} f'(x) \cdot \frac{1}{k} \sin kx \, dx \right| \\
 &= \frac{1}{k} \left| \int_0^{2\pi} f'(x) \sin kx \, dx \right| \\
 &\leq \frac{1}{k} \int_0^{2\pi} |f'(x) \sin kx| \, dx \\
 &= \frac{1}{k} \int_0^{2\pi} |f'(x)| |\sin kx| \, dx.
 \end{aligned}$$

ここで、 $|f'(x)| \leq M$ より、 $0 \leq x \leq 2\pi$ において $|f'(x)| |\sin kx| \leq M |\sin kx|$ が成り立つので、

$$\int_0^{2\pi} |f'(x)| |\sin kx| \, dx \leq \int_0^{2\pi} M |\sin kx| \, dx$$

となるから、

$$\begin{aligned}
 |a_k| &\leq \frac{1}{k} \int_0^{2\pi} M |\sin kx| \, dx \\
 &= \frac{4M}{k}.
 \end{aligned}$$

よって、

$$\begin{aligned}
 T_n &\leq \sum_{k=1}^n \left(\frac{4M}{k} \right)^{\frac{3}{2}} \\
 &= 8M^{\frac{3}{2}} S_n \\
 &< 8M^{\frac{3}{2}} \left(1 + \frac{5\sqrt{2}}{4} \right) \\
 &< 8M^{\frac{3}{2}} \left(1 + \frac{5}{4} \cdot \frac{3}{2} \right)
 \end{aligned}$$

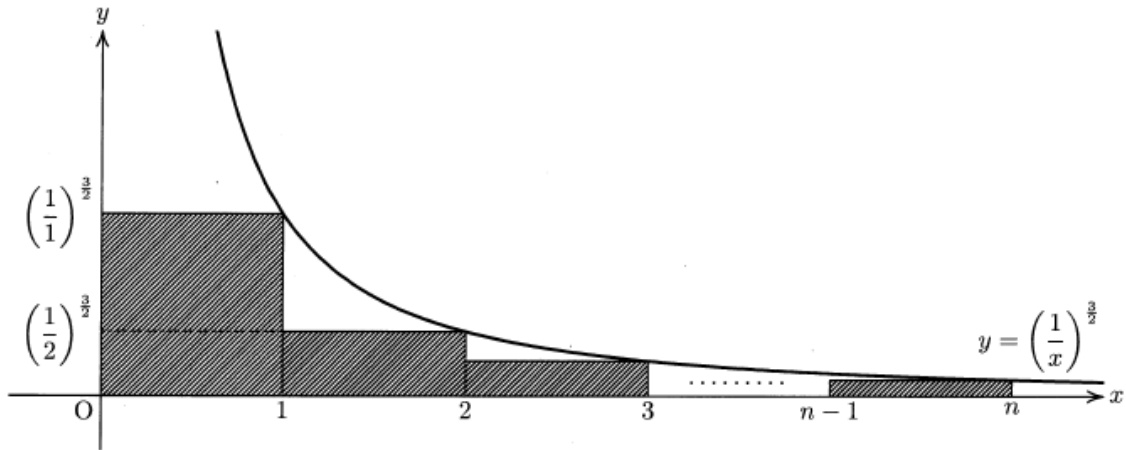
となるから、 $T_n < 23M^{\frac{3}{2}}$ が成り立つ。

(証明終り)

4 (つづき 3)

【(2)の補足】

$n \geq 3$ のとき, S_n は次の図の斜線部分の面積を表す.

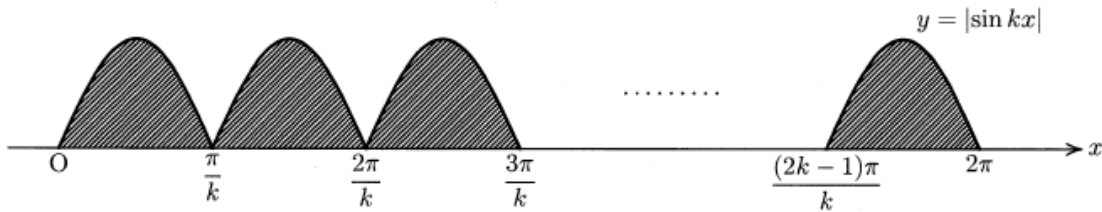


このことから, $n \geq 3$ のとき, $S_n < 1 \cdot \left(\frac{1}{1}\right)^{\frac{3}{2}} + 1 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^{\frac{3}{2}} + \int_2^n \left(\frac{1}{x}\right)^{\frac{3}{2}} dx$ が成り立つことがわかる.

((2)の補足終り)

【(4)の補足 1】

$\int_0^{2\pi} |\sin kx| dx$ は次の図の斜線部分の面積を表している.



このことに着目すると,

$$\int_0^{2\pi} |\sin kx| dx = 2k \int_0^{\frac{\pi}{k}} \sin kx dx$$

となることがわかる.

このことを利用して $\int_0^{2\pi} |\sin kx| dx$ の値を求めることもできる.

((4)の補足 1 終り)

4 (つづき 4)

[(4) の補足 2]

$\int_0^{2\pi} |\sin kx| dx$ は次のように計算することもできる.

$x = \frac{t}{k}$ とおくと,

$$\begin{aligned} \int_0^{2\pi} |\sin kx| dx &= \int_0^{2k\pi} |\sin t| \cdot \frac{1}{k} dt \\ &= \sum_{l=1}^{2k} \left(\frac{1}{k} \int_{(l-1)\pi}^{l\pi} |\sin t| dt \right). \end{aligned}$$

$\int_{(l-1)\pi}^{l\pi} |\sin t| dt$ について, $t = u + (l-1)\pi$ とおくと,

$$\begin{aligned} \int_{(l-1)\pi}^{l\pi} |\sin t| dt &= \int_0^{\pi} |\sin\{u + (l-1)\pi\}| du \\ &= \int_0^{\pi} |\sin u| du \\ &= \int_0^{\pi} \sin u du \\ &= [-\cos u]_0^{\pi} \\ &= 2. \end{aligned}$$

以上より,

$$\begin{aligned} \int_0^{2\pi} |\sin kx| dx &= \sum_{l=1}^{2k} \left(\frac{1}{k} \cdot 2 \right) \\ &= 2k \cdot \left(\frac{1}{k} \cdot 2 \right) \\ &= 4. \end{aligned}$$

((4) の補足 2 終り)

5

線分 AB と線分 BC の長さが等しくなる x の値は、 $x = \frac{\sqrt{2}}{2}$

$n = 4$ のとき、右図のようになるので、

$$L_4(1) = \frac{1}{4}, L_4(2) = \frac{1}{2}, L_4(3) = \frac{\sqrt{7}}{4}$$

よって、 $L_4(k)$ ($k = 1, 2, 3$) の最大値は、

$$\frac{\sqrt{7}}{4}$$

$n = 5$ のとき、右図のようになるので、

$$L_5(1) = \frac{1}{5}, L_5(2) = \frac{2}{5}, L_5(3) = \frac{3}{5}, L_5(4) = \frac{3}{5}$$

よって、 $L_5(k)$ ($k = 1, 2, 3, 4$) が最大となる k の値は、

$$\boxed{3} \text{ と } \boxed{4}$$

2 以上の整数 a で、 $L_a(k)$ が最大となる k の値が 2 個あるとき、そのような k のうち大きい方の値を m とおくと、 $L_a(k)$ が最大となる k の値は $m - 1$ と m であるから、 $L_a(m - 1) = L_a(m)$ が成り立つ。

このとき、右図のようになるので、

$$\begin{aligned} \frac{m-1}{a} &= \sqrt{1 - \left(\frac{m}{a}\right)^2} \\ \frac{m^2 - 2m + 1}{a^2} &= 1 - \left(\frac{m}{a}\right)^2 \\ 2m^2 - 2m - a^2 + 1 &= 0 \quad \dots \textcircled{1} \\ m &= \frac{1 \pm \sqrt{2a^2 - 1}}{2} \end{aligned}$$

$m > 0$ より、 $m = \frac{1 + \sqrt{2a^2 - 1}}{2}$

…(ヒ)(答)

また、 $b = 3a + 4m - 2$ とおいたとき、 $L_b(k)$ が最大となる k の値が 2 個あり、それらの大きい方を l とすると、同様に、

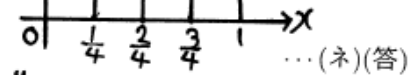
$$l = \frac{1 + \sqrt{2b^2 - 1}}{2}$$

ここで、①より

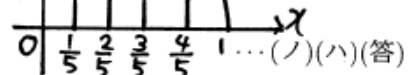
$$a^2 = 2m^2 - 2m + 1$$



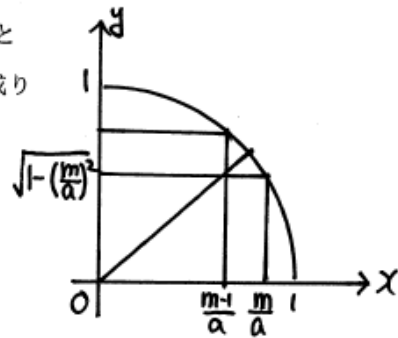
…(ヌ)(答)



…(ネ)(答)



…(ノ)(ハ)(答)



5 (つづき)

このとき,

$$\begin{aligned}
 2b^2 - 1 &= 2(3a + 4m - 2)^2 - 1 \\
 &= 2(9a^2 + 16m^2 + 4 + 24am - 16m - 12a) - 1 \\
 &= 18a^2 + 32m^2 + 8 + 48am - 32m - 24a - 1 \\
 &= 16a^2 + 2a^2 + 32m^2 + 7 + 48am - 32m - 24a \\
 &= 16a^2 + 2(2m^2 - 2m + 1) + 32m^2 + 7 + 48am - 32m - 24a \\
 &= 16a^2 + 36m^2 + 9 + 48am - 36m - 24a \\
 &= (4a + 6m - 3)^2
 \end{aligned}$$

より,

$$l = \frac{1 + \sqrt{(4a + 6m - 3)^2}}{2} = \boxed{2a + 3m - 1} \quad \dots(7)(答)$$